

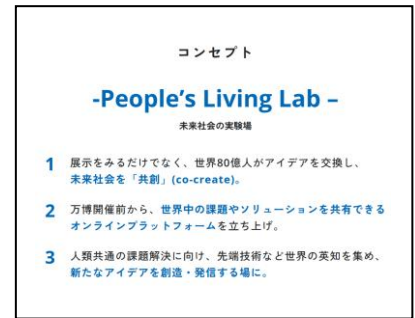
今さら聞けない#62・「大阪・関西万博」

1. 現実の諸問題

右掲は4月13日～10月13日まで夢洲で開催されている「2025大阪・関西万博」のHPにコンセプトについての記述です。「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマですが、サブテーマは「いのちを救う」「いのちに力を与える」「いのちをつなぐ」とあります。NHKのTV番組でも生命に関するものが特集されていて、実際にIPS細胞で人工心臓のモデルが展示されています。老化の課題である認知症にも薬が表れています。

しかし、世界では人口の爆発的増加が起こっていますが、片や先進国では人口減少という2極化があります。この2極化は食料やエネルギーの面で格差を生み、貧困や暴力から逃れる移民問題が起こり、さらには環境面でも温暖化などの大きな課題が起こっています。さらには、「アメリカ第一主義」を唱えるトランプ大統領は、自国民の労働力という視点で「関税」による保護貿易を行ない世界経済を混乱させています。このような背景の中で開催されているので、庶民的には現実の物価高騰に晒されて防衛的な心理が働いており、前売り面では予想の6割程度という状況で、つまり、集客の大多数を占める筈の日本各地からの来阪者が物価高騰などもあって躊躇している状況です。

「いのち輝く」のベースは新生児の出生数ですが、日本のみならず先進国は減少傾向です。つまり、老化と新生のバランスが逆転しており、本来は人口が増加する後進国が「輝く」筈ですが、多くが移民や難民として老化が進む先進国へ流れて繁栄に貢献すると同時に、先進国内で諸問題を起こしています。これはグローバルな政治課題ですが、日本では労働力としての外国人流入、さらには資本としての工場や不動産の買収という形で流入が起こっています。



2. 「いのち輝く」

現実的には、日本は格差社会の諸問題が出ています。「就職氷河期」という大きな課題があり、戦後のベビーブームの団塊世代ジュニアたちが‘91年にバブル崩壊後の景気後退で就職できずに、40代になり収入不安定で独身という方が多く、その子供世代も人口減ですが親の格差が大きく社会問題化しています。どんな社会でも格差が出て来ますが、社会からはじき出された方が諸問題を起こしています。例えば、老後生活の根幹となる社会保障は、従来、各段に人数の多い団塊世代の保険金で高齢者の生活を支えて来ましたが、少子高齢化が進み年金の分配率が社会的な課題になり、社会保障の不公平な歪みが浮き彫りになっています。

高齢者が社会保障で介護サービスを受ける人が多くなり、中には、自立できる能力があるにも関わらずデイサービスなどを受けている状況もあり、制度の矛盾が出ています。中には、医者がデイサービス施設を運営して、デイサービスを受けている間に診察をするというケースも出ています。確かに、この方たちも「いのち輝く」時間を過ごしておられるのですが、自助努力で「いのち輝く」ことも可能なのではないだろうかという疑問に思える状況です。

「適者生存」という大自然の法則は普遍とすれば、今の行き過ぎた社会保障は少し道を外れていると思います。私の母は死ぬ直前まで「社会の役に立っているか」と自問していました。95才で老衰でなくなりましたが「いのち」を全うしたと誇りに思っています。もちろん、私や弟の支援があったのも事実ですが、その「姿」を誇りに思っています。私も約3年前に大動脈瘤の手術で人工血管になっていますが、お陰様で内科的な病気は高血圧の薬を頂いているだけです。「百歳現役」は私の願いですが、アンチエイジングに励んで実現したいと本気で思っています。7月に事業承継しますが、若い人たちの邪魔をしないように心がけてサイクリックな生活スタイルで自分の「いのち」を輝かせたいと思っています。

3. 会場に行ってみて

ともかく、万博が開催されて1カ月半になろうとしています。私は、町内会の企画で5月25日(日)に万博に行きました。団体バスは西ゲートに着くのですが、駐車位置が一番奥でゲートまで約1kmを歩き、まず右上のガンダムが迎えてくれました。ここで、東ゲートから来る三男と合流して右中の大屋根リングに上りました。上がりはエスカレーターで素晴らしい景色を堪能、右下は丁度昼頃に待ち時間が30分になったオーストリア館の自動演奏ピアノで、流石に「音楽の国」と実感しました。ガンダムの写真で分かるように曇り空で風があり寒い日でした。

団体予約の国連館は2時30分だったので、予約なしにすぐに入れるパビリオンを回りましたが、やっぱり、予約のパビリオンのクオリティとは雲泥の差を感じました。オーストリア館も他の時間帯は1時間以上だったようで、ミケランジェロの「キリストの復活」で有名なイタリア館は予約なしだと2時間以上との事でした。息子は会場予約で運良く取れたと喜んでいました。多くの方は休憩場などでスマホ予約に挑んでいましたが、なかなか、取れないと嘆いていました。

私は歩数計をセットしていなかったが、息子は3万7百歩で約18kmとの事です。私は左足を1週間前に痛めていたので、途中で足が張って休憩を多くとりましたので約半分の約9km位かも知れません。ともかく、会場は物凄く広いので1回では堪能できず、また行きたいと思いました。次はドローンショーなどもある夕方からの入場にしたいかなと思いながら皆さんとバスで帰りました。



4. 明日への希望

国連館では「団結で平和」と訴えていましたが、現実には紛争が絶えないでいます。この状況で「いのち輝く」というテーマは、世界各国が平和になることがベースだと痛感しました。平和の「素」は食料問題。日本国内でも格差が拡大し、人口バランスも逆ピラミッドで年金や医療問題などが深刻になっています。さらに、私のような高齢者の多くは行動範囲が狭く、かつ、同年配などと同質性が中心の交流になっていますので、他の状況はニュースなどで接するだけです。

万博会場では各国のパビリオンにそれぞれの外国人がいて、それぞれ丁寧に接客してくれていました。また、来場者に外国人が家族などで来ていました。今回はスマホ案内が充実しているので、外国人から話しかけられることはなかったが、お国柄が出ていました。ともかく、疑似体験ではありますが異文化に接するのは、異質体験と言いますが、小さな子供たちが普段と違う体験で視野を広げることは非常に良いことだと思いました。

「いのち輝く」の主役は若い人たちです。人口が爆発的に増加した中で、先進国は豊かさの中で出生率が低くなり、後進国ほど出生率が高い構図です。また、医療も先進国の支援で、例えば、日本は井戸水からの胃がん問題で早期発見の医療機器の提供や支援を行なって長寿化に貢献しています。諸問題の根源の一つは「貧しさ」にあります。つまり、若い人たちが「明日への希望」が持てることが大切です。この事は、日本の若い人たちが世界を知り、現状に感謝できるか否かにも関わっています。「いのち輝く」の根源は「明日への希望」、これが常に一番大切と実感しました。もの余りの中で、贅沢が普通になりつつある日本の若者が、貧困の中で遅く育つ外国文化と接して「異質」を疑似体験することで万博の意義があるように感じました。

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryo.html> にあります！】